

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0972500730		
法人名	特定非営利活動法人 社会福祉研究会なかよし		
事業所名	グループホーム ねむのき		
所在地	栃木県大田原市北滝 192 - 1 (電話) 0287 - 54 - 2247		
評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町 118 - 189		
訪問調査日	平成20年9月9日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建て		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 15,500円	
敷金	無		日用品・おむつ等 実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	昼食に含まれている
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	磯医院、吉成歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅街からは離れた緑豊かな田園地帯に位置している。「ゆっくり、一緒に、楽しく、地域の人と」を理念に掲げ、ホーム内にはのんびりした空気が流れている。職員は、一人ひとりの入居者のペースに合わせてじっくりと関わり、入居者の困難に寄り添うために知恵を出し合っただけでなく、対応方法を工夫している。ホームに往診してくれる協力医院があり、夜間の急変時にも対応してくれるなど、家族も安心である。管理者は福祉関係の行政職員の経験を活かして、入居者や家族の年金の相談や福祉サービスの手続きなどを支援している。今後はホームが地域から頼りにされる相談機関としての機能も果たしたいと願っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、地域での暮らしを念頭に置いた理念の策定が提案され、これまでのモットーに「地域の人と」という文言を加えて修正を図った。地域住民との交流の機会も少しずつ増やす方向に進んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は時間が足りず、一部職員の意見を参考にしながら、管理者と介護主任が相談して自己評価をまとめた。自己評価や外部評価の機会を職員研修の一環として捉え、評価項目一つ一つを職員と共に検証していくことを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には入居者家族、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。入居者は参加していない。会議では、事業運営状態やホームの暮らしの報告、市からの情報、地域包括支援センターの活動案内等が話し合われている。現在、入院中に入居者に負担してもらう待機料徴収について、会議で話し合いが始まっており、それを受けて結論を出したいとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議には入居者家族が参加しており、意見箱への投函、家族への報告の機会など苦情や意見を受け付ける仕組みはあるが、家族からの苦情や意見はほとんど見られない。家族の中には日頃のサービスについて意見や要望があると思われるので、さまざまな機会を通して率直な意見を聴取するよう、今後の取り組みに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は住宅街から離れた田園地帯にあり、近隣住民が気軽に訪れる環境ではない。年2回ほどの特別な行事の際には、周辺の住民にチラシを配って案内をし交流の機会をつくっている。小学生の訪問や歌や踊りのボランティアの訪問があるものの、活発な交流という状態ではない。管理者は福祉関係の行政職員の経験を活かして、地域から頼りにされる相談機関としての機能も果たしたいと願っている。ホームの地域への浸透を図りながら、相談機能を広めるような働きかけに期待したい。

2. 評価結果（詳細）

		は、重点項目。			
外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」を事業所のモットーとして掲げ、職員にも周知しながら運営してきた。地域密着型サービス事業であることをさらに意識し発展させるために「地域のひと」を加え、「ゆっくり、一緒に、楽しく、地域のひと」に作り替えた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記に加え「高齢者の幸せに」「人間らしく暮らせるように」を職員向けのモットーとし、さらに「認知症を和らげるコツ10カ条」も記載した「グループホームの運営方針」を職員および、入居家族に渡して、理念の浸透を図っている。この理念に従って、画一的なプログラム実施を避けているため、ホーム内にはゆったりとした空気が流れている。		家族の中には、もっと活発なレクリエーションや外出、身体を動かすことを期待している向きがある。理念に照らして、このような家族の希望をどう取り入れるか、または、理念や方針をどのように理解してもらうか、検討して欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は住宅街から離れた田園地帯にあり、近隣住民が気軽に訪れる環境ではない。年2回ほどの特別な行事の際には、周辺の住民にチラシを配って案内をし交流の機会をつくっている。小学校の運動会への招待には管理者が出かけている。小学生の訪問や歌や踊りのボランティアの訪問があるものの、活発な交流という状態ではない。		管理者は福祉関係の行政職員の経験を活かして、地域から頼りにされる相談機関としての機能を果たしたいと願っている。ホームの地域への浸透を図りながら、相談機能を広めるような働きかけに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は時間が足りず、一部職員の意見を参考にしながら、管理者と介護主任が相談して自己評価をまとめた。前回の外部評価では、地域での暮らしを念頭に置いた理念の策定が提案され、これまでのモットーに「地域のひと」という文言を加えて修正を図った。地域住民との交流の機会も少しずつ増やす方向に進んでいる。		自己評価に職員を積極的に参加させることは、従前からの懸案であり、外部評価を効果的に活かすために必要なことである。自己評価や外部評価の機会を職員研修の一環として捉え、評価項目一つ一つを職員と共に検証していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には入居者家族、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。入居者は参加していない。会議では、事業運営状態やホームの暮らしの報告、市からの情報、地域包括支援センターの活動案内等が話し合われている。現在、入院中に入居者に負担してもらう待機料徴収について、会議で話し合いが始まり、それを受けて結論を出したいとしている。</p>		<p>運営推進会議では外部評価の結果なども報告し、委員からの意見もふまえた上で、運営やサービスの改善に役立てるよう今後の取り組みに期待する。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>大田原市が主催する、介護事業者連絡会議やケアマネージャー連絡会議が2ヶ月に1回程度開催され、計画作成担当者を兼ねる管理者や職員が必ず参加して、情報を入手したり、研修を受けてサービスの向上に役立てている。また、市の介護相談員の報告書を職員と共に精査して、内容に心当たりのある提案に対して改善を図っている。今年度、食事前の手洗い、清潔習慣について改善に取り組んだ。</p>		
<p>4. 理念を实践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の家族は、利用料金の支払いを兼ねて月1回はホームを訪れるので、その時にホームでの暮らしぶりを伝えている。また、入居者に変化があったときも電話などで報告している。</p>		<p>入居者の様子をあまり細かく連絡してくれなくてもよい、と思う家族と、どんな毎日過ごしているのかが知りたい家族、また、普段の暮らしについて懸念や要望をもっている家族がいる。ホームと家族の信頼関係を築く上でも、ホームの考え方や職員の異動について、機会を捉えて伝えておくことは重要である。今後の取り組みに期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には入居者家族が参加しており、意見箱への投函、家族への報告の機会など、苦情や意見を受け付ける仕組みはあるが、家族からの苦情や意見はほとんど見られない。</p>		<p>家族の中には日頃のサービスについて意見や要望があると思われるので、さまざまな機会を通して率直な意見を聴取するよう、今後の取り組みに期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は家庭の事情などで離職することがあり、長く勤められるように、職員が互いに意見を交換しやすい環境づくりや職場の雰囲気作りに努力している。職員が退職する場合は、入居者に説明し、寄り添うケアに力を入れて、ダメージを緩和するようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質の向上のために県内や県外の研修に職員が順番に参加できるよう配慮している。新入職員はグループホームケアについて仕事を通して先輩職員から学んでいる。例えば、新しく入った入居者がホームでの生活にとまどっている内容を申し送りノートに書いて職員全員が共有し、知恵を出し合って解決策を考え、ケアを工夫するような取り組みから学ぶことが大きいという。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大田原市が主宰する介護事業者連絡会議やケアマネジャー連絡会議で、同業者と情報交換をし、運営に役立てている。また、全国グループホーム協会に加盟し、協会会報から得られる情報を参考にしたり、分からないことを協会に質問するなどして、運営やサービス改善に活かしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の要望で不本意ながら入居する場合、本人がホームの暮らしに馴染みにくいということがよくあるため、入居申込みを受けて本人や家族と面談する際には、本人のグループホームへの入居に対する意思をよく確認することを重要視しており、書面にも残している。見学や体験入居、お試し期間などを通して、グループホームになじめるかの見極めをすることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」「地域のひと」という理念のように、大きな施設では難しい、一人ひとりの入居者と深い関わりを持つグループホームの良さを職員は感じており、少しのケアの工夫で入居者に感謝されたことを共に喜び合っている。年長の入居者が一生懸命役割を果たそうとしていることや、昔の話を沢山聞かせること、昔の歌を教えてもらえることなどから、職員は学ぶことが多いという。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居申込みがあると介護主任が自宅を訪問し、本人や家族から身体状況、暮らし方の要望、生活歴などを聴き取り、調査表にまとめ、ケアのヒントとしている。ホームでの暮らしが始まると、入居者によってはすぐに馴染む人といると困難を来す人がある。困難を来す人の行動をよく観察し、職員が知恵を出し合って解決策を見出し、安心して暮らせるよう寄り添うケアを実施している。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>朝の申し送りの際にミニカンファレンスを行い、入居者の様子を職員が共有するようにしている。職員の観察や本人の意向、家族の希望をふまえて、暫定的な介護計画を立て、入居して2週間くらいで介護主任を中心にケアチェック表に基づいたアセスメントを行い、当初の状況と異なる結果が出る場合は、介護計画を立て直している。調査票と介護計画および日々の介護記録は個人別にファイルされており、職員が個別の計画と状況を把握しやすいようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>当初は6ヶ月に1回、介護計画の見直しを行い、その後は概ね1年ごとに計画を立て直す。入居者の状態や状況に変化が見られたときには、あらためてケアチェックを実施し、介護計画を立て直している。介護計画の見直しによってもホームでの生活継続が困難になったときには、早めに家族と相談して退居に向けた話し合いをしている。計画の見直しの見極めは、計画作成担当者が日々の介護記録の内容から判断しており、特定のモニタリング書式や評価様式は作成していない。</p>		<p>多くの家族は本人がいつまでグループホームで生活できるかを大変心配しており、事業所から退居の相談が出た場合、混乱することが想像できる。日頃から介護計画について家族とよく相談し、内容を説明するとともに、契約書や重要事項説明書に記載されている退居の判断基準を詳しく説明しておくことが求められる。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週1回、認知症に理解のある協力医が往診して入居者の健康管理をしている。管理者が事業所開設前の職業から得た経験、知識をいかして入居者、家族へ年金、医療などの福祉サービスについて相談、助言をしている。希望する入居者へは、理美容の得意な職員が支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認をしている。かかりつけ医への通院は家族としている。認知症に理解ある事業所の協力医が週1回往診をし、健康管理に当たっており、また夜中の急変時にも来てくれる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と重度化した場合や終末期についての話し合いはしていないが、協力医が週1回往診による健康管理と急変時の対応をしており、在宅酸素を付けた入居者が往診を受けながら、最期まで暮らした事例もある。昨年度から医療連携体制加算を受けて訪問看護を利用した終末期ケアの実施を検討しているが、未だ事業所の方針は決まっていない。		医療連携体制加算の検討をしているが、重度や終末期の入居者を支えるためには、医師や訪問看護の協力、さらには職員の知識と技術、心構えが必要である。事業所が対応可能なこと、困難なこと、不安なことなどを職員全体で話し合い、統一した方針のもとで体制をつくるのが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ボタンのかけ違いなど衣類の乱れやトイレ誘導は人前であからさまに声かけをしないで、他の入居者から離れたところできるようにし、プライバシーに関して触れられない話話はないようにしている。また個人情報の取り扱いには注意しており、同意書に基づいて対応している。訪問当日も調査員が居室を視察する際は、管理者が本人に同意を得ていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、入居者は思い思いに好きな楽器を弾いたり、本が好きな人は読書をして過ごしている。訪問の日は殆ど入居者が食堂ホールにおいて、一緒に歌を歌ったり、テレビを見ていた。気が向くと、草むしり、食事の準備に加わる入居者もいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は近所の店、JA宅配を使いその献立を参考にして入居者の好みを反映して調理している。献立によってお芋つぶしや皮むき、片付けなどに気持ちが向いた時は加わる入居者もいる。食前、食後の挨拶は当番制でおこない、管理者は箸配りの際に、入居者が自分の箸を認知したりほかの入居者の箸を教えたりする力を引き出していた。食事中、どれを食べたら良いのかがわからない入居者に隣の入居者が言葉をかけ支えあっている姿が印象的であった。職員は入居者と一緒に食事をしているが、入居者へ食事を促す言葉かけや食器の片付けが一部職員ペースに見受けられた。		食事は入居者にとっては1日の中で大きな楽しみしみごとになっていると思われる。職員は介助する一方にならず、理念「ゆっくり、楽しく、一緒に、地域の人と」を共有して、入居者のペースを大切にして、楽しく食事が出来るような雰囲気づくりを期待する。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(火、木、土)の午後入浴している。職員は脱衣場での着替えに1人、浴室に1人体制で支援している。森の香りやラベンダーの香りなどの入浴剤を使い楽しんでいる。年2、3回近くの足湯を楽しんでいる。曜日、時間帯については考慮中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌、大正琴、キーボード、読書などの楽しみごと、調理、畑作業など得意なことで経験、知恵を發揮している入居者がいる。カーテンの開け閉めやテーブル拭きの役割を担っている男性もいる。月に1回、居間で喫茶室を開いている。テーブルをおしゃれに飾ったり、数種類の飲み物やお菓子を用意して楽しんでもらっている。		楽しみごと、役割を自分から進んでおこなう入居者もいるが、自分で見つけることが出来ない入居者には、何がその人の役割、楽しみ、気晴らしになるか潜在する記憶、有する力、希望をふまえて活力を引き出し、「してあげる介護」ではなく「本人が生きることへの支援」を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへ行き買い物をして、昼食を外食で楽しむ人、希望して家族と外出に出かける人、月1回定期的に外泊する入居者などがいる。外に出たい入居者は事業所周辺を職員と歩いてくる時もあるが、外出の機会を増やすことを希望している家族がいる。		もっと外出の機会が増えることを希望している家族がいる。外出は地域の人との理解、協力を得る機会であり、ホーム理念「ゆっくり、一緒に、楽しく、地域の人と」の実践の場となる。外出する入居者、時間帯、行き先などが固定化されていないかを振り返り、家族の声を聞き、その日の一人ひとりの入居者の希望にそった外出支援を期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所前は車が通り危険なため、門扉は閉めたままにしているが、玄関は自由に出入りできる。職員は入居者の外出傾向を把握していて、外出しそうな様子がみえたとさりげなく声かけをして、入居者の気持ちを転換するように対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間災害時発生時の対応マニュアルがあり、年1回消防署の協力で避難訓練を実施している。周辺は田んぼ、畑が多く地域の人とは離れているため訓練、対策での地域への協力呼びかけはしていない。また消防法の改定に伴い消防署へ提出する事業所の消防計画を作成した。今後年2回の避難訓練を実施する予定である。		避難訓練は夜間一人体制を想定して、職員は消防、警察署などのアドバイスをもらいながら入居者と一緒に避難経路の確認をしたり、繰り返しての訓練が求められる。また運営推進会議などで呼びかけて、地域との協力体制づくりを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はJAのヘルシーコースを選択して入居者の栄養バランスには配慮している。残食量を確認して特に食欲がなかった場合、日誌に記載して全職員で情報を共有し、食事形態(きざむ、とろみなど)の工夫をしている。午前、午後2回のおやつときにはお茶やコーヒー、紅茶などを提供し、また食事や入浴後の水分摂取に配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂ホールには外出したときに見てきて描いた近くの山の景色の絵や塗り絵、行事の写真、職員手作りの季節の飾り付けがされている。また畳スペースを設え、入居者のホッとできる場所となっている。浴室、台所、食堂などの設備は家庭サイズ仕様であり、(廊下は広いスペースで～削除)各居室入口には、一人ひとりの入居者がわかりやすい位置に自分で描いた絵やネームプレートを設置するなどの工夫がされている。</p>		<p>食卓にも使用する居間のテーブルは、小柄な入居者にはやや高めなので、3脚あるうちの一つを低くして、入居者にとって座り心地、居心地よく過ごせる工夫が望まれる。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にベッド、タンスが設置されていて、テレビや音楽好きな入居者はキーボード、趣味のグループや孫、犬の写真、使い慣れたテーブル、人形などが置かれ居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>		